

ISSN 2187-6177

日本語音声コミュニケーション 9

**Japanese Speech Communication 9**

2021. 3



日本語音声コミュニケーション学会  
Society of Japanese Speech Communication

製作 ひつじ書房

## 目次

発刊のことば

### 和文

#### 論文

リピートと自己モニターを取り入れた日本語アクセント訓練の効果に関する実験的  
検証

—中国語母語話者を対象として— 王睿来・ALBIN Aaron・林良子 .....1

#### 論文

中国語母語話者による日本語名詞アクセントの生成

—アクセント型別の難易度と拍数による難易度について—

王睿来・ALBIN Aaron・林良子 .....19

#### 研究ノート

解任決議案を提出された委員長の指名発話の特徴

宿利由希子 .....38

#### 著者紹介

雑誌の案内(投稿の方法、連絡先)

編集後記

## 発刊のことば

日本語の音声コミュニケーションとその教育を専門に考える研究会「日本語音声コミュニケーション教育研究会」を、私たちが日本語教育学会のテーマ研究会として作ったのが2006年の4月です。7年目(2013年)に会誌を発刊し、11年目(2017年)に、日本語教育学会とは独立した学会になりました。それに伴い、研究会誌も第6号から学会誌になりました。

『日本語音声コミュニケーション』(英語名 Japanese Speech Communication)は、マルチメディアを駆使したオンラインジャーナルです。紙媒体の雑誌や本と違って、動画そのもの、音声そのものを掲載することができ、掲載されたものは世界じゅうで視聴されます。文字では書き表せないような、ちょっとした「日本的」な仕草でも、日本語を発音している被験者の口の中を撮ったMRI動画でも、日本語の教室の様子でも、世界に向けて発表することができます。

日本語の音声コミュニケーションとその教育に関する私たちの理解をさらに深め、研究を活性化していくために、本誌をご活用下さいましたら幸甚です。

2019年 3月吉日

「日本語音声コミュニケーション学会」代表幹事  
定延利之

## 著者紹介

### **王睿来** (おうえいらい)

南京師範大学文学院ポスドク研究員

主な研究分野：日本語教育、中国語教育、音声学

### **Ruilai WANG**

Postdoctoral Researcher at School of Liberal Arts, Nanjing Normal University, China.

Main topics of research: Japanese as second language, Chinese as second language, Speech communication.

### **ALBIN Aaron**

Educational Testing Service 副研究員

主な研究分野：言語学、第二言語習得

### **Aaron ALBIN**

Associate Research Scientist at Educational Testing Service, United States.

Main topics of research: Linguistics, Second language acquisition.

### **林良子** (はやしりょうこ)

神戸大学大学院国際文化学研究科教授

主な研究分野：音声学・音声科学、第二言語習得研究

メールアドレス：rhayashi@kobe-u.ac.jp

主要著書：『ことばの認知のしくみ』(分担執筆、三省堂、2007)、『イタリア語スピーキング』(共著、三修社、2011)、『4ステップドイツ語』(共著、郁文堂、2017)、『リスコミュニケーション』(共著、明石書店、2021)

### **Ryoko HAYASHI, Ph D.**

Professor, Faculty of Intercultural Studies, Kobe University, Japan.

Main topics of research: Phonetics, Phonetic science, Second language acquisition.

E-mail address: rhayashi@kobe-u.ac.jp

Main publications: *Kotoba no Ninchi no Shikumi* (Language Recognition) , Sanseido, 2007., *Speaking Italian*, Sanshusha, 2011., *Vier Jahreszeiten*, Ikubundo, 2017., *Risk Communication*, Akashi Shoten, 2021.

**宿利由希子** (しゅくりゆきこ)

東北大学高度教養教育・学生支援機構講師

主な研究分野：日本語教育、社会言語学、コミュニケーション論

メールアドレス : shu9ri@gmail.com

**Yukiko SHUKURI**

Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University

Main topics of research: Japanese language pedagogy, sociolinguistics, Communication

E-mail address: shu9ri@gmail.com

## 雑誌の案内(投稿の方法, 連絡先)

『日本語音声コミュニケーション』(Japanese Speech Communication)は、日本語音声コミュニケーション学会の会員であれば、どなたでも投稿できます。(但し、会員以外からの投稿も査読委員会の判断で認めることがあります。)

研究会の「入会案内」については、下記の web ページをご参照下さい。

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/apply.html>

「投稿要領」と「査読委員会会則」については、下記の web ページをご参照下さい。

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/seika.html>

「査読委員会名簿」については、下記の web ページをご参照下さい。

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/summary.html>

その他のお問い合わせは、下記までお願い致します。

定延利之(さだのぶとしゆき)(代表幹事)

sadanobu.toshiyuki.3x[at]kyoto-u.ac.jp ([at]の部分を@に変えてご送信下さい。)

〒 606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科

## 編集後記

NHKで「ワタシたちは ガイジンじゃない！」という番組を見ました。宮藤官九郎の脚本でイッセー尾形が演じる一人芝居です。上演の場所は、名古屋市の団地の一角、舞台だけの吹き曝しです。

明治時代、国策としてブラジル移民が進められ、1908年に781人を乗せて笠戸丸が神戸港を出港しました。好待遇、高賃金が謳われていましたが、実は、1888年に廃止された奴隷の代わりでした。

バブル期の労働力不足の解消のため、1989年に入国管理法が改正され、90年に施行されました。日系であれば3世までどんな職業にでも就ける在留資格を得ることができるようになりました。2008年のリーマン・ショックで経済活動がにぶると、日本政府は「帰国支援」と称して1人30万円の補助金を提示しました。そして、今は、コロナです。

劇の中で、工場勤務の日本人女性が「ブラジルには、男女の賃金に差がないの？ 男女平等なの！」と感動する場面があり、「あいさつのとき、日本人は目をそらす」という日系青年のセリフがあります。私は、1978年から80年、ブラジルに留学していました。番組を見て、あらためて、日本人は挨拶のとき目をそらすことに気づきました。

番組では、宮藤氏による芝居と過去、現在の記録映像とがモザイクになっています。宮藤氏も番組もよく取材しました。

40年以上前だと思います。来日したシャンソン歌手、イブ・モンタンがテレビで「人は見なくちゃいけない、見て気づいたら言わなくちゃいけない」と言っていました。

どんなこと、ものであれ、見つめ、粘り強い洞察で分析し、突き詰めて、発信すれば、平和につながります。

皆様の論文投稿をお待ちしています。

馬場良二(査読委員長)



日本語音声コミュニケーション学会  
Society of Japanese Speech Communication

日本語音声コミュニケーション 9

Japanese Speech Communication 9

## インタラクティブ PDF 版

発行 2021年3月31日 初版1刷  
著者 日本語音声コミュニケーション学会  
<http://www.speech-data.jp/nihonsei/index.html>  
発行・製作 株式会社 ひつじ書房  
〒112-0011 東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F  
Tel.03-5319-4916 Fax.03-5319-4917  
郵便振替 00120-8-142852  
toiawase@hituzi.co.jp <https://www.hituzi.co.jp/>

ISSN 2187-6177